

1) 目的と概要

信徒奉仕職研究チームは、「信徒の奉仕職の展開ないし促進について、総合的に調べ研究し、司教ないし司祭評議会等に諮問する」(大阪カトリック時報 2001年8月号)ことを目的として、2000年12月1日付で発足した。当チームは、信徒・修道者・司祭で構成され、当初、京都教区からの参加(司祭1名)も含め7名のメンバーで発足したが、その後人事異動等で一部入れ替わりがあり、現在の実働メンバーは5名である。

2) 活動経過

当チーム設立時における活動規定では、次のように定められている。(上記「時報」より) ① 月一度例会を持ち、「主日の集会祭儀」における信徒の役割、および集会祭儀を行うにあたっての留意点ないし方針をまとめ、文章化する。 ② 信徒奉仕職の中には、社会における奉仕職と典礼における奉仕職があるが、チームは信徒奉仕職全体像を明確にし、教区の中で何を、どのように取り組むことが求められるかを提言すること。

発足当初より月一回、年間10回の例会を持ち、研究活動を行ってきた。最初の約1年間は、『司祭不在のときの主日の集会祭儀 式次第(試用版)』の制作に取り組み、2002年4月に、完成した冊子を教区内全小教区に配布した。 2001年12月より、信徒奉仕職の全体像についての研究に移り、各種文献・資料を取り上げ、学習会形式で意見交換をしながら全体像把握に努めた。信徒奉仕職の概要についての一定の理解をもとに、当チーム第一期の任期終了(2002年11月末)に際し、当「中間報告」をまとめることとした。

3) 今後の課題

前項②に示されている当チームの「活動規定」のうち、「信徒奉仕職の全体像を明確にする作業については、理論的な面ではこの中間報告をもって一応達成されたと考えが、教区の中で何を、どのように取り組むことが求められるか」というより具体的な検討課題は、依然今後に残されているといわなければならない。 これまでの検討でも明らかなように、「信徒奉仕職」の概念は、まだ十全に規定されたものとはなっていない。その作業は、現代社会の中で真にキリストの奉仕職にあずかることを願う人々の具体的な活動を通して、今後次第に進められることになるだろう。それは、理論的であるだけでなく、具体的、現実的作業でなければならない。 最後に、具体的に信徒奉仕職を促進していくために、今後の課題として、まず以下のよう

な諸点を考えている。

- ① より緊急に必要なとされる奉仕職としてどのようなものがあるか。
- ② 信徒奉仕職促進のために、どのような組織のあり方が望ましいか。
- ③ 広く奉仕職への自覚を高め、また必要とされる奉仕職実施のために、どのような養成のあり方が適切か。
- ④ 当「中間報告」についての補遺修正。

以上